羽咋工高新聞

第１４０号

発行所
石川県羽咋市西釜屋町
石川県立羽咋工業高校
TEL (0767) 22－1193

編集兼発行
羽咋工高生徒会新聞部

第５６回卒業式挙行

祝　卒　業

羽咋工業ブランド

校長　稲垣　裕

校長として本校に赴任して二年、地域の方と話をする機会に恵まれた。多くの方が、「私は〇年〇〇科卒業です。」と自己紹介をされた。近隣町会・企業・羽咋市役所・消防・警察等、卒業生の多くの方が産業、行政そして地域を支えている。共通していることは、母校愛。在学当時を懐かしむとともに、母校に感謝し、応援する気持ちである。

また、企業の人事担当の方からは、「羽咋工業高校の生徒は素晴らしい。まじめに仕事に取り組む、頑張る、任せられるので是非採用したい」と言われることがある。これは、本校生に対する信頼であり、本校の教育活動に対する信頼である。そんなとき、私は「羽咋工業ブランド」を感じる。

この「羽咋工業ブランド」は、一朝一夕に出来上がったものではない。これまでの羽咋工業の卒業生の活躍、生徒の「登下校中や部活動中の元気な挨拶」、「地域貢献や部活動での頑張り」など日々の活動の積み重ねによっても築いてきたものである。我々は、これまでの努力に感謝し、「羽咋工業ブランド」に磨きをかけていかなければならない。

そのために、卒業し社会に巣立っていく三年生には、「自助」という言葉を考えて欲しい。本校の校訓は皆さんも知っているとおり「自律・創造」である。加えて「自助」である。「自分の力で自分の向上発展を遂げること」と辞書に書かれている。「自分で決断し、周囲に頼らず、自分の責任で対応すること」とも言える。自らのベストを尽くし、たとえ成果を挙げられなくてもそれを受け入れる覚悟を持たなければならない。就職するとチームで協力して仕事をすることになる。「協働」が仕事の上では大切である。何か困ったときは、相談し、指導を仰ぐことは大切である。しかし、自ら最終判断し、自らの責任で行動しなければならない。これが、社会人として成長し、会社から、そして地域から信頼を得ることに繋がるのである。三年生は、卒業し、就職すると職場の本校卒業生からいろいろな場面で助けられ心強く感じることと思う。そして一年後には先輩として、後輩を指導しているのではないだろうか。

在校生には、凡事徹底。今年一月の始業式で全校に話したことである。「なんでもないような当たり前の事を徹底的に行うこと」または「当たり前のことを他人の追随を許さないほど極めること」である。わかりやすい言葉であるが、社会へ出ても大切なことであり、毎日実践し、継続するには根気と精神力が必要である。その継続が、学習や部活動、就職や進学の結果に繋がるのである。もうすぐ四月。新入生が入学する。これまでを振り返り、新学年を迎える準備をして欲しい。メンバーは入れ替わるが、生徒、教職員一同で「羽咋工業ブランド」の更なる高みを目指したい。卒業生は、何年かして、社会人としてキャリアアップし、成長した姿を見せて欲しい。活躍を祈る。

感謝

教諭　井村　和彦

生徒会誌【若竹】の卒業生へのメッセージに「北辰居其所、而衆星共由之」（孔子の論語）（北辰の其の所に居て、衆星のこれに共（むか）うがごとし）という言葉をよく書いている。この言葉を書くようになったのは、小説家であり、柔道家でもある「井上靖」が使っていた言葉だと知ったからである。その解説に、北極星が他の星々を従えているように廻っている。人生においても生き方の柱となるものによって、生活の仕方が変わってくる。その柱を早く見つけ出し、生き方を決める事が大切である。と書かれていた。

定年退職ということで教師という仕事を終えようとしている今、私の生活の中での北極星は、やはり「柔道」であったと確信している。多くの苦しみやほんの少しの幸せの場面が、ビデオのコマ送りのように鮮明に蘇ってくる。それが「生きる糧」であり、「活力」であったことは言うまでも無い。

本校にいる生徒諸君にも、自分の生き方の中心となる「北極星」を早く見つけてもらいたい。そして、生き方に信念を持ち、自分の夢を実現してもらいたい。その願いをこの言葉に込め書き続けている。

この言葉を見つける切掛けになったのは、大学時代に井上靖の「北の海」を読みなさいと勧められたからだと思っている。作者が金沢での四高時代に柔道に明け暮れていた様子が書かれていた。それ以来、井上靖のファンとなり、「敦煌」「蒼き狼」等を熱心に読み込んでいた覚えがある。

そしてこの時期に想うことは、大学を卒業してから、今までに出会った柔道部員や生徒達のお陰で、柔道部の監督や教員として、育ててもらえたのだと思っている。本当は生徒達が「先生」であり、「大切な仲間」であったということを痛感している。私も北大路魯山人の「坐辺師友」の境地達したいものである。

教員生活の最後の四年間をこの羽咋工業高校で過ごさせてもらい、本当に「感謝」している。自分の最後の勤務校だということを記憶に刻み、「チーム羽工」に永遠のエールを送りたい。

社会の担い手となれ

電子機械科教諭　田中　公博

昭和五十五年（一九八〇年）に石川高専を卒業し、民間企業に勤めた。学生時代、勉強が嫌いだったのに何故かもう少し深く勉強がしたくなった。二年間ではあったが社会での様々な体験が漠然と『勉強』に思いを向けさせたのかもしれない。大学三年生に編入し、卒業後、大学院に進むはずであったが、たまたま受験した教員採用試験に合格したことが人生を変えた。両親の勧めもあり教員になった。昭和五十九年（一九八四年）のことである。

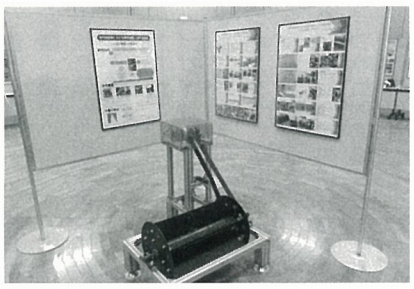
初任は七尾工業高校だった。現在の七尾東雲高校の機械系学科の前身である。工学系の勉強しかやったことがないので「先輩の先生・生徒との接し方」や「授業の進め方」など解らないことだらけだった。その後、金沢市立工業高校での転勤を経て、平成十一年（一九九九年）四月、いよいよ本校での勤務が始まった。生徒は礼儀正しく、勉強もしっかり頑張り、部活動も活発な学校だった。担任を二年間やった。その後、電子機械科や工業科・総務課などの仕事をやり、工業教育について多くのことを勉強させてもらった。また、ソフトテニスの顧問を長くさせて頂き、現監督の折戸先生にも大変お世話になった。羽咋工業高校は四年間の県立工業勤務を挟み平成二十五年（二〇一三年）から七年間の勤務を含め十七年間過ごしたこととなる。三十六年間の教員生活で最も長く勤務した学校であり最も思い出深く、愛着のある学校となった。今後とも本校の卒業生が地元を始め多くの方面で社会の『担い手』となり活躍されることを心より期待しています。

2019 課題研究公開発表会

令和二年一月二十五日(土)にコスモアイル羽咋を会場に、課題研究公開発表会がおこなわれました。会場には企業の方々や、中学生、保護者など多数の来場者がありました。三年生は、学習の成果を英語での概要を含め発表しました。また展示会場にも多くの来場があり、すばらしい発表会になりました。

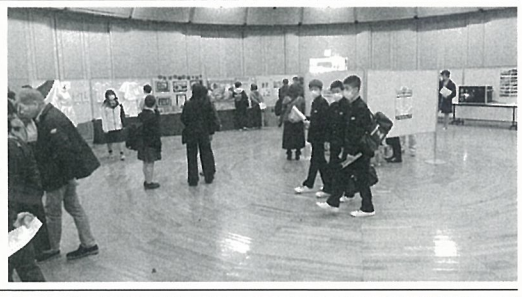
公開発表テーマ（発表順）

一　電子機械科・電気科
専門高校等における産学連携人材育成事業
～小水力発電の研究とその製作と改良～



二　電子機械科
ホバークラフトの製作

三　電気科
技能検定に挑戦
～三級電子機器組立て作業～



四　建設造形科デザインコース
製品デザイン
「魅力あるダストボックス制作」

五　電子機械科
ゴミステーションの製作

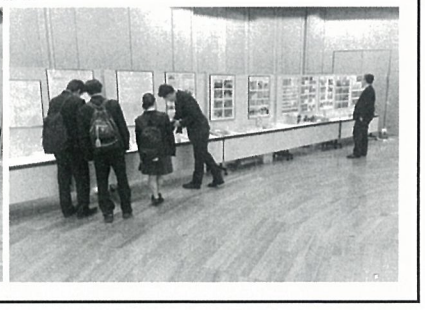
六　電気科
電気工事工法の研究

七　建設造形科建築コース
設計競技に挑戦

八　電子機械科
技能検定旋盤二級＆技能まつりへの挑戦

九　電気科
学校で役立つ電気技術の研究

十　建設造形科土木コース
ピザ窯製作

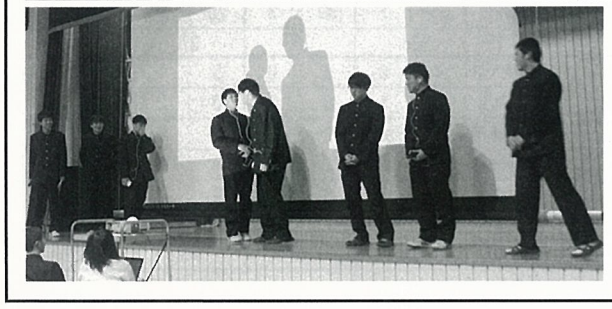


四年連続敢闘賞受賞

令和二年一月二十八日(火)にいしかわ総合スポーツセンターで、令和元年度石川県高等学校総合体育大会優秀校の表彰式がおこなわれました。本校は四年連続敢闘賞を受賞しました。敢闘賞とはクラス規模十二クラス以下、生徒数五百人以下の学校の中で最も優れた学校に送られる賞です。

三年生を送る会

令和二年二月十日（月）第一体育館で三年生を送る会が行われました。会の冒頭、在校生を代表して後期生徒会長の坂本尚弥君から、三年生代表前田竹千代君に記念品（印鑑）の贈呈が行われました。前田君から「大切に使わせていただきます。」という謝辞が述べられました。



その後、生徒会企画のクイズがあり、会場は穏やかな雰囲気に包まれ、楽しい行事になりました。最後に三年生の赤池なるるみさんから一・二年生に対して会の開催に対しての感謝の言葉が述べられました。